

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	2-(4)-ア	安全・安心に暮らせる地域づくり	施策	③ 交通安全対策の推進	
			施策の小項目名	○飲酒運転根絶に向けた社会づくり	
主な取組	交通安全対策・飲酒運転根絶対策事業			実施計画記載頁	139
対応する主な課題	④交通死亡事故に占める飲酒絡みの死亡事故の割合が全国ワースト1位(28年)、人身事故に占める飲酒絡みの事故の割合が全国ワースト1位(28年現在、27年連続)であるなど極めて深刻な状況にある。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
道路における交通の安全と円滑を確保するため、「沖縄県飲酒運転根絶条例」に基づいた飲酒運転根絶に向けた県民意識の高揚、自治体・事業所・飲食店等との連携のほか、参加体験型の交通安全教育並びに広報啓発活動等の各種飲酒運転根絶対策を推進する。						
		「沖縄県飲酒運転根絶条例」に基づく県民意識の高揚				
実施主体	県	飲酒運転取締りの強化				
担当部課【連絡先】	警察本部交通部交通企画課	【098-862-0110】				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況							(単位:千円)		
予算事業名 飲酒運転根絶対策事業費									
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
							当初予算額	主な財源	
県単等	その他	—	—	—	9,383	16,129	12,348	県単等	○H29年度: 飲酒運転根絶を目指し、飲酒運転根絶アドバイザーを積極的に活用した交通安全講話を72回実施するとともに、広報効果の高いテレビCMを製作した。 ○H30年度: 飲酒運転根絶を目指し、引き続き、飲酒運転根絶アドバイザーを積極的に活用した安全講話、テレビCM・ラジオ等による広報啓発を実施する。
予算事業名 交通安全対策事業費									
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
							当初予算額	主な財源	
県単等	その他	1,242	1,468	1,229	1,110	418	433	県単等	○H29年度: 交通安全啓発のため、アルコール体質判定ができる簡単ジェルパッチ等を活用した交通安全教育1,444回、飲酒運転根絶県民大会を開催した。 ○H30年度: 交通安全啓発のため、引き続き、アルコール体質判定ができる参加体験型交通安全教育、飲酒運転根絶県民大会を開催する。

様式1(主な取組)

予算事業名 交通警察活動事業費							H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○H29年度: —	
県単等	その他	230	165	210	75	—	72	県単等	○H30年度: 飲酒運転根絶活動を行う事業所のリーダーを養成するため、飲酒運転根絶アドバイザーなどを活用した養成講座を実施する。	
活動指標名	交通安全教室の開催				H29年度			H29年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	859回	754回	1,301回	959回	1,444回	—	100.0%	16,547	順調	飲酒運転根絶を目指し、飲酒運転根絶県民大会を開催したほか、交通安全教育、テレビCMなどの各種広報啓発活動を実施した。 飲酒運転根絶アドバイザーを活用した講話を72回実施、アルコール体質が判定できる教材(簡単ジェルパッチ)等を活用した参加体験型安全教育を1,444回実施した。
活動指標名	飲酒運転根絶アドバイザーによる講話				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠と取組の効果 飲酒運転根絶を目指し、交通安全教室の開催回数が前年を大きく上回るなど、取組は「順調」であった。 各種取組を効果的に推進した結果、平成29年中は、全人身事故に占める飲酒絡み人身事故が全国ワースト1(平成2年以降27年連続全国ワースト1)を脱却したほか、飲酒絡みの死亡事故の割合も5年ぶりに全国ワースト1を脱却した。
	—	—	—	93回	72回	—	100.0%			
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案							反映状況			
①県民に対し、飲酒運転の危険性や飲酒運転がもたらす代償の重さを自覚させ、自らのこととして考えさせる飲酒運転根絶教育を推進するとともに、テレビCMなど各種広報媒体を活用し、飲酒運転を許さない社会環境づくりを推進していく。							①飲酒運転を許さない社会づくりを目的に、平成29年度は、飲酒運転根絶アドバイザーによる交通安全講話を72回(うち高校18回)実施したほか、飲酒運転根絶CMを製作・放映した。さらに、浦添市でだこ大ホールにおいて、飲酒運転根絶県民大会を開催するなど、県民の飲酒運転根絶に対する気運を高めた。			



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証(Check)

#### (1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

##### ○内部要因

・全人身事故に占める飲酒絡み事故・死亡事故の割合が全国ワーストを脱却したものの、その割合は未だ全国平均の約2倍と高い状況にあり、引き続き、飲酒運転根絶に向けた取組を推進する必要がある。

##### ○外部環境の変化

・飲酒運転については、二日酔い運転により検挙される者も後を絶たないため、県民に対し、アルコールに対する正しい知識及び適度の飲酒量について、知事部局などの関係機関と連携して広報啓発を強化する必要がある。  
・自治体・事業所等において、飲酒運転根絶に向けた自主的な取組が行われ、飲酒運転根絶意識の高揚が図られた結果、全人身事故に占める飲酒絡み事故及び死亡事故がいずれも減少したが、一方で飲酒運転の検挙件数が2,000件を超えるなど、依然として県民の法令遵守・規範意識の低さが問題となっている。

#### (2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・全人身事故に占める飲酒絡み事故の割合が全国ワーストを脱却したものの、飲酒運転による検挙者は2,000件を超えていることから、引き続き、飲酒運転の取締りを強化する。  
・県民一人一人に「飲酒運転をしない させない 許さない」という社会環境づくりに向けた取組を推進する。



### 4 取組の改善案(Action)

・県民に対し、飲酒運転の危険性や飲酒運転がもたらす代償の重さを自覚させ、自らの問題として考えさせる飲酒運転根絶教育を推進するとともに、テレビCM等各種広報媒体を活用した広報啓発活動を推進するほか、飲酒運転の取締りの強化など、飲酒運転を許さない社会環境づくりを推進していく。